



好酸球性副鼻腔炎について

耳鼻咽喉科 吉井 良太

Q. 好酸球性副鼻腔炎とは？

A 好酸球を始めとした様々な炎症細胞が鼻粘膜で活発に活動することで、ネバネバした鼻水や鼻茸（ポリープ）が多く発生する病態です。風邪をひいて副鼻腔に膿が溜まる、いわゆる「蓄膿症」とは異なります。

Q. どんな症状が出ますか？

A 鼻水、鼻づまり、鼻水がのどに落ちる後鼻漏、痰がらみ、そして、嗅覚障害です。二次的に睡眠障害や日中の集中力低下を感じる人もいます。また、嗅覚障害は食べ物の風味がわかりにくくなる「風味障害」も引き起こすため、食事がおいしく食べられなくなるという人もいます。

Q. どんな人がなりやすいですか？

A 気管支喘息の患者さんや痛み止めでアレルギー反応が出やすい人に比較的多い病態です。気管支喘息は好酸球等による炎症が気管支粘膜に影響することで発症しますので、好酸球性副鼻腔炎と気管支喘息が合併することはしばしばあります。

Q. どうやって治療するのですか？

A 鼻茸が小さい場合は、炎症細胞の働きを抑える飲み薬やステロイド点鼻薬を使用します。また程度や症状によっては、飲み薬のステロイド剤を使用することもあります。鼻茸が大きい場合は薬が効きにくいことが多く、局所麻酔や全身麻酔の手術で鼻茸を切除します。

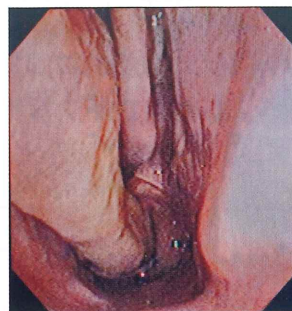
Q. 治りづらいというのは本当ですか？

A 本当です。手術をした人の場合でも、半数前後の人は再発すると言われています。そのため好酸球性副鼻腔炎は国の難病に指定されています。気管支喘息もそうですが完治は難しく、病態を抑えて症状が出にくい状態を維持していくことが目標となる病気です。

Q. 再発した場合はどうするのですか？

A まずは飲み薬のステロイドを中心に積極的な投薬を試みます。しかし、ステロイドは副作用の問題もあり長期間は使えません。鼻茸が多発した場合、以前は再手術を行うことが基本でしたが、3年前から注射剤の新薬（デュピクセント®）が適応になりました。2-4週間ごとの注射が必要になりますが、好酸球を始めとした炎症細胞の活動性を強く抑えることで劇的に鼻茸が収縮し、鼻づまりや嗅覚障害が改善します。ただし、大変高額な治療薬になるので、指定難病に対する医療費助成制度を利用することが現実的です。適応には病態の重症度も影響しますので、詳しくは耳鼻咽喉科外来でご相談ください。

〈鼻茸なし(安定期)〉



〈鼻茸あり(増悪期)〉

